

# 令和3年度 第4回藤沢市地域福祉計画推進委員会

## 議 事 要 旨

### I. 開催概要

1. 日 時 2022年(令和4年)3月28日(月)9時30分～11時30分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎5階 5-1・5-2会議室

### 3. 出席者(敬称略)

(1) 委員=18名

・会場出席者

石渡 和実、川原田 武、松永 文和、椎野 幸一、木村 依子、  
浅野 朝子、山口 耀子、伊原 敦、越川 玲子

・オンライン出席者

東田 正喜、小池 信幸、戸高 洋充、宮久 雪代、市川 勤、  
南部 久子、川辺 克郎、末吉 育子、森 もと江、松沢 邦芳、  
江崎 康子

・欠席者

越智 明美

(2) 事務局=10名

・福祉部：池田部長

・地域共生社会推進室：玉井室長、片山主幹、浅野主幹、越川室長補佐、  
山中室長補佐、石田主査、佐藤主査、棚澤、高松

### 4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今後のスケジュールについて

(2) 藤沢市地域福祉計画2026の推進について

(3) 次期計画改定に向けたアンケート調査について

①回収率向上等に向けた工夫について

②新たに設けるべき設問について

3. その他

4. 閉 会

## II. 会議の概要（議事要旨）

### 1. 開 会

事務局の事務連絡後、福祉部池田部長より挨拶があり議事に入った。

### 2. 議 題

#### （1）今後のスケジュールについて

《資料1に基づいて事務局 榑澤より説明》

##### ○榑野委員

「推進」という記述が多いが、それだけでは、よくわからない部分があるので、具体的な議題テーマについて、内容を追記していただきたい。

##### ○事務局

「推進」という表現は、計画を作った後に、それに即した取組を実施するという意味。地域に向けて周知をするだけでは自分事にとらえられないと思う、そのような内容である

##### ○松沢委員

具体的に、進行管理やアンケートなどスケジュールが並んでおり、大きいくりで「推進」という表現で問題ないと個人的には思っている。

##### ○石渡委員長

様子を見ながら事務局で検討していただきたい。

#### （2）藤沢市地域福祉計画2026の推進について

《資料2～4に基づいて事務局 榑澤より説明》

##### ○市川委員

今までの流れと、大きく世の中が変わってきている。コロナのために、様々なことが対面なく進めていかざるを得ない。

そこを踏まえて ICTの活用なども含め、根本的に考え直す必要があるのではないか。感染症については、共生する視点で、今までのことを積極的に変えていく視点で考えていく必要がある。身近な人を含めて意見交換がほとんどできない。コロナ禍でもコミュニケーションをとっていくことが必要であると考えている

##### ○石渡委員長

コロナで行事等できなくなっている中で、新しい流れをどう作っていくかだと思う。会えなくなっている状況ではあるが、身近なところでの新しい地域活動の話も聞く。違うやり方ができつつある。

#### ○椎野委員

コロナ禍でもできることは何かを考えている。防災の安否確認も、3密を避けて、考えればできる。

課題の整理は2020ですでに整理できている。これを実行に移すことができていない。実行に移すにはどうしたらいいか、委員は、行政は、何をすべきか、考えるべき。現在行っている、できることは何か、やりたいことは何か。やってみて初めてわかる問題点。更生支援のような分野は少し考えていかなければいけないが、その他の分野は以前から言われていたこと。各委員も地域で推進していただく。やらないうちに次年度見直しに入るのは手順としておかしい。その辺を議論していただきたい。

#### 石渡委員長

御所見は計画ができていますが、他地区はどうなのか。

#### ○事務局

地域福祉活動計画、地域の皆様が自分たちで行動に移すという計画。地区ごとの地域福祉活動計画については、御所見地区のみが作成している状況。

#### ○伊原委員

地域でも徐々に活動計画策定の動きが見られている状況がある。地域の活動支援には積極的に関わっていききたい。市社協にも相談をいただきたい

#### ○椎野委員

御所見ができてほかの地区ができない理由はあるのか。2020も御所見だけ作成した。なぜ皆様がやらないのか。

#### ○松永委員

地域福祉計画の位置づけを改めて確認させていただきたい。計画は6年間計画であり、6年先は見えない状況、中長期的に先を見据えて、やりながら見直しを図りながらやっていくことになる。資料1の表についても、見直しを図りながら次の策定を進めるといふあくまで計画の進め方として捉えて良いのではないか。成果目標の達成に向けた課題の整理について時間がかかる、実際には表のようにきれいにはいかない。

地域福祉計画は市の全体の方向性を記しており、地域福祉活動計画は、民間の活動計画ということで市の計画と似通っていた部分もあるが、より身近な活動を進めている。地域ごとの計画を作っていくことはますます重要になってくる。

作っていくための母体は地域ごとで、人材などすべてが一様ではない。地区の計画が作られるのはいちばん良いことであるが、地域差はある。13地区の状況、しっかり実態把握する必要がある。CSW、民生委員、市民センターが地区と関りをもって取り組んでいる。計画という名称が存在していなくとも、実態把握、活動はしている。過程の中で迷いは起こりうることなので、この議論も前進のひとつであると捉えられ

る。

#### ○浅野委員

鵜沼地区ではコロナ禍であるが、できることは何かを考えている。人と人とのつながりが重要であると考え、敬老会は会場を2つに分けるなどして、密を避けて開催した。地域として、つながりを進める取組を行った。情報が伝わっていないという現状がある。来年度は地区社協として、新たな福祉を考え、先を見ながら進めていきたい。

#### ○市川委員

御所見地区は、他地区よりも積極的に計画を進めていると思う。他地区は動きがないというのが現状だと思う。この計画は、どこが責任をもって説明するのか。地区社協が主体となって、地区の計画を立てる流れのように見えるのだが、他地区は一切行われていないのでは。地区社協活動の中で、事業は展開されていると思うが、この計画は、誰がどう引っ張るのか、全く見えない、動きがわからないのが現状。自身の立場では、地区の自治会長に伝えるのみで、具体的な動きが取れない。理想的な流れは市、市社協、地区社協、におろしていくが、そうっていない。地区社協は独立した組織なので、独自性に任せることになるが、その関係性を整理する必要がある。

#### ○川原田副委員長

来月、地区社協連絡協議会があり、今出ていた意見について勉強会をしようという話になっている。地区社協、民児協、市民センター長・公民館長が集まる。4/18を予定している。まとまったらまた報告したい。

#### ○椎野委員

御所見は2020から組織を立ち上げている。各団体で組織する問題課題検討会がある。防犯、生活環境、防災、青少協、主だった団体が組織を作って活動計画を策定している。

できることをやればよい。それに加えて、少し色をつけてやればよい。

アイデア出しをして、目標達成をするにはどうしたらよいか。本来の議論ができていない。どのようにして作っているか、他地区に配布していただきたい、そういう情報提供が少なすぎる。

#### ○事務局

地区社協連絡協議会では、地域福祉計画、地域福祉活動計画の情報提供を通じて、即した取組を実施するか、今行っている取組を整理するか、今回を入り口に、進めていけたら。

現在の計画と取組の関係はイメージがつかない部分もあるので、この委員会で整理した資料も活用していきたい。

実施主体が見えないという指摘があったが、最終的には、行政として進める取組、

地域で進める取組やそのサポートについて、整理していきたい。情報発信についても課題としてとらえているので、進めていきたい。

○石渡委員長

次年度以降、地区ごとの情報共有、計画の推進にあたって具体的な行動に移し、評価、という流れを作っていけたら。

○伊原委員

地域福祉活動計画は、地域の皆さんで作上げる計画、市社協は事務局としてバックアップという位置づけで進めている。地区の活動計画を作成する段になっても、同様のスタンスでバックアップしていきたい。

○椎野委員

市民に計画を誰が伝えるのか。行政が伝えるのか、地域に伝えるのか。

○江崎委員

善行郷土づくり推進会議で、「ふれあいだより」が配布されていた。善行駅周りのバリアフリー化工事の進捗状況の報告であった。善行地区内での地域づくりを把握できた。地域福祉計画とつながっていると理解したが、どうつながっていくかがわからなかった。

○山口委員

善行地区の道路整備については、7年前から検討会議が設置されて、それに沿って整備が進められている。郷土づくり推進会議では、地域福祉部会があり、善行団地内で「井戸端会議」を開催しているほか、出張型終活セミナーなど進めている。

防災は、以前は1か所に集まってやっていたが、近年は防災用品の確認や、避難場所への参集訓練を行った。そこでは防災倉庫を確認するなど、できることをやっている。

○松永委員

コロナ禍も2年が経過し、工夫しながら模索しながら、前に進んでいる状況にある。オフィシャルな計画として、地域福祉計画と地域福祉活動計画があり、インフォーマルな部分で、地区ごとの計画が位置付けられる。地区ごとの活動計画を持たないとだめというわけではなく、それぞれの特性で柔軟に対応している地区もある。

そして、どう市民に伝えていくのか、委員それぞれが持ち帰り、行政・市社協は広報をおこない、それぞれが計画を意識して事業を実行することになる。役割を正確に区別できるものではない。地区ごとの計画を作るのであれば、この委員会とは別の機会で行い、地区ごとの計画は目標として持つのはいいが、人の力や環境も影響する。例えば認知症サポーターの養成などは、企画を充実させることで改善がなされるが、

地域に関心を持てる人材を、大きなくくりで考える必要がある。コロナが起こる前から、支えあい機能低下、孤立の問題はあった。コロナの問題に引っ張られすぎな印象もある。地区ごとにどのような人材づくりを進めるのか、考える必要がある。

○石渡委員長

地区ごとに違いはあるが、様々な活動は進められているということは、改めて確認した。

### **(3) 次期計画改定に向けたアンケート調査について**

#### **①回収率向上等に向けた工夫について**

《資料5～7に基づいて事務局 榑澤より説明》

○椎野委員

どんな工夫をしても回収率は50%くらいである。60%いけばいいほう。アンケートに関して、興味のある人に届けば 詳細な数字が望める。成果目標の実現という点では、数%底上げするのは非常に難しいのではないか。

○浅野委員

高齢者に聞くと 広報やホームページを見る人もいないので、 現状を知るにはアンケートしかないと思う。高齢者には紙ベース、若い人にはインターネットと工夫しながら行う。

○石渡委員長

今回のアンケートはオンライン回答も、ということなので、変化を期待したい。

○市川委員

紙とオンラインの方法は非常に良い。様々な方に参加してもらうのが良い。中身に関して、地域福祉計画を知っているか、など具体的なことを聞いたほうが良いと思う。

#### **②新たに設けるべき設問について**

《資料8、9に基づいて事務局 榑澤より説明》

○椎野委員

防災に関して、防災訓練に参加したことがない人がなぜこれほど多いのか不思議である。総合防災訓練は役員が参加していて、定期的に交替している。

また一時避難場所を知らないという人がいる。防災マップを全戸配布しているはずで、周知しているはずである。アンケートの精度、評価することにも疑問がある

○東田委員

更生支援に関するアンケート項目はないのか。

#### ○事務局

更生支援に関する項目は、前回の中には入っていない。これは重要な部分でもあるため、更生支援ということの周知も図りながら、何らかの形で掲載を検討していきたい。

#### ○椎野委員

地区ボランティアセンター、地域の縁側に関して、何故知らないという回答がこれほど多いのか。補助金交付もしている事業であるのに、何故こうなるのか、利用者への周知が必要。

#### ○南部委員

地区ボランティアセンターの知名度が低いと会議参加時から感じている。地区ボラには名称があり、その名称でつながる人もいるので、その名称を出してほしいと提案した。それでも変化がない。

設問に関して、「行政や福祉サービスの情報」という表現が漠然とする中で、なぜ成年後見に関する項目が多いのか。

#### ○事務局

福祉サービスの設問に関して 成年後見が多いのは、地域福祉計画で利用推進が求められている背景がある。周知を図るためにも、独立した設問で表現している。地域福祉計画の本編にも、同様に活用推進の項目を設けている

他の福祉サービスについても、精査していきたい。

#### ○越川委員

最後設問の自由記入欄に関して、次回もぜひ設けていただきたいが、質問の文字が多い、若い方がこの文章を見て回答を得られるか。表現を短くして、若い方にもわかりやすいように表現を変えていただきたい。

#### 4. その他

##### ○事務局

議題2の地域福祉の推進について、今回聞きたかった部分を、もう少し工夫して提示していきたい。

議題3のアンケートについては、次回、具体的な項目を提示したいと考えている。場合によっては郵送でのやり取りもありうる。

来年度委員改選となり、委員公募も改めて行う予定である。

##### ○川原田副代表

バリアフリーについて、認知されていると思うが駅のホームなど点字ブロックを見ていると、白状を持った方がぶつかっている。周知、啓発を検討いただきたい。

#### 4. 閉会

以上